

日本産業衛生学会東海地方会

地方会ニュース

発行所 東海地方会ニュース編集事務局
〒 470-1192
愛知県豊明市杓掛町田楽ヶ窪1-98
藤田保健衛生大学医学部衛生学教室
電話・FAX (0562) 93-2456
発行責任者 小林 章雄

(題字 皿井 進筆)



マレーシア国立労働安全衛生研究所で労働安全衛生教育を受けた高校生たち

労働安全衛生と学校教育

久永 直見 (愛知教育大学保健環境センター)



産医研から愛教大に来て3年です。愛教大は全教科の教員を養成する人員と施設を有するという点では、一種の専門店街です。産業医になって分かったのは、ここには危険な工具、長時間労働、VDT、化学物質、粉じん、溶接、鋳造等、予想外に多くの安全衛生上の課題があることです。幸い労使とも安全衛生に積極的で、職場改善等が進んでいますが、産業医活動に付随して重要と感じたことが3つあります。

第1は、学生の安全衛生です。学生は労働者ではないが、教職員以上に有害物等を扱うことも多く、そうした場合には教職員に準じた措置が必要と思います。教職員だけの特殊健診でよいのかとの声があり、学生の有害物取扱調査とそれに基づく安全衛生相談も始めましたが、全体的にはまだ緒についたばかりです。

第2は、学校教育の中での労働安全衛生教育です。安全衛生を組み込む対象としては、中学～大学での一般教育、工学系の専門教育、保健体育と技術科の教員養成教育等があります。中学の技術・家庭と保健体育、高校の保健体育と工業の学習指導要領には、労働安全衛生に関する教育の内容が示されています。例えば、中学の技

術では、工具等の適切な使用の項で溶剤中毒の防止が挙げられ、高校の保健では、社会生活と健康の項で「職業病や労働災害の防止には、作業形態や作業環境の変化を踏まえた健康管理及び安全管理を行う」とあります。学校教育への安全衛生の組み込みは、安全健康に学び、卒業後、安全健康に働き、安全健康な製品を社会に提供できる人作りに役立つでしょう。しかし、そうした教育は、不十分な現状です。現在、愛教大を核に日本の技術教育の蓄積を開発途上国に提供するシステム作りが進行中で、相手国のニーズ調査のために、2007年10月にマレーシアの教育省や学校のほか、国立労働安全衛生研究所も訪問しました。研究所では丁度、高校生向けの安全衛生教育をしており、賑やかでした(写真)。日本は遅れをとっているようです。

第3は、学生アルバイトの安全衛生です。日本学生支援機構の調査(2004)によれば、全国の昼間部大学生の77%(208万人)がアルバイトをしています。愛教大でも率は同様で、学生の20%弱がアルバイトによる傷病を経験しています。学生アルバイトにおける安全衛生も重要と思われます。

当地方会で、こうした課題にも協力して取り組めることを期待しています。

平成19年度 日本産業衛生学会東海地方会学会

プログラム



那須 民江 (名大・院・医・環境労働衛生)

平成19年度日本産業衛生学会東海地方会学会が11月17日(土)に名古屋大学医学部において開催されました。参加者数は122名(男性78名、女性45名)でした。ご多忙の中参加してくだ

さいました会員の皆様方に厚く御礼申し上げます。

午前中は一般発表でした。今回は産業衛生学の基礎的な研究から職場の調査等の応用的研究まで、22題の演題の登録がありました。昼食休憩までずれこむほど建設的で活発な情報交換が行われ、これは会員の皆様の産業衛生学に対する関心の強さの象徴と思われる。

午後はシンポジウムのみで開催となりました。一昨年のクボタによるアスベストの健康被害の報道は産業衛生学に携わる者のみならず、国民全体の関心事となりました。その後の政府のアスベスト対策により国民の注目度は低下しましたが、今後20年以上アスベストの健康被害は続くと言われており、問題は決して解決した訳ではないと思われます。アスベストの健康被害の重要性を軽視していた反省を込め、多方面から研究を継続し、対峙していくのが私たち産業衛生学に携わる者の責務と考え、「アスベスト研究の最前線」のシンポジウムを計画しました。

柴田先生には早期発見・予防の観点から、「ハイリスク集団における胸膜肥厚斑の把握」と題して、建設作業員の定期健康診断時の胸部単純直接X線写真で胸膜肥厚斑をスクリーニングし、胸部CTによって確定診断することにより、ハイリスク集団の健康管理を行う手法を紹介して頂きましたが、感度はかならずしもよくなく、今後の課題であることが明らかにされました。

ついで車谷先生には「近隣ばく露に関する疫学的知見」と題して、南アフリカの石綿鉱山、尼崎市の石綿管製造工場、英国の石綿製品製造工場、米国の石綿製造工場、イタリアの石綿製造工場の近隣ばく露を紹介して頂き、これらの特徴についてご講演いただきました。近隣ばく露の場合、工場労働者とは中皮腫の発症部位が異なる等の重要な知見を紹介していただきましたが、やはり早期発見に課題が残されている様です。

関戸先生には「悪性中皮腫の分子生物学」と題して、common tumorsに比べてその基礎的研究が遅れているといわれている分子メカニズムの研究をご講演いただきました。悪性中皮腫に関連したいくつかのがん抑制遺伝子の不活化が明らかにされてきました。今後の研究の進展によっては、分子標的治療法の開発にも繋がり、期待されます。

最後に酒井先生には「中皮腫患者の肺内石綿・非石綿繊維が語ること」と題し、長年の患者の肺内石綿繊維等の分析結果の蓄積から明らかにされたことをご講演いただきました。石綿繊維のみならず非石綿繊維も多く検出されており、今後非石綿繊維の健康影響について関心を寄せていく必要があると思われる。いずれのご講演もアスベストの最前線の研究であり、今後の課題と方向性がクローズアップされ、有意義なシンポジウムであったと感じております。最後になりましたが、共催をしていただきました愛知県医師会、愛知産業保健推進センター、学会開催に対する助成を頂きました大幸財団に厚く御礼申し上げます。

日 時：平成19年度11月17日(土) 10:00~

会 場：名古屋大学医学部 第3講義室 第4講義室
〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65

〈午前の部〉

◆一般演題

- 第4講義室 演題番号101~111 労働態様と健康
- 第3講義室 演題番号201~211 労働環境と健康

〈午後の部〉

◆地方会会長挨拶

◆シンポジウム「アスベスト研究の最前線」

座 長：久永 直見 (愛知教育大)

那須 民江 (名古屋大・院・医)

1. ハイリスク集団における胸膜肥厚斑の把握
—建設作業員の胸部単純写真・CT所見の比較から—
柴田 英治 (愛知医科大学医学部 衛生学)
2. 近隣ばく露に関する疫学的知見
車谷 典男 (奈良県立医科大学 地域健康医学)
3. 悪性中皮腫の分子生物学
関戸 好孝 (愛知県がんセンター研究所 分子腫瘍学部)
4. 中皮腫患者の肺内石綿・非石綿繊維が語ること
酒井 潔 (名古屋市衛生研究所 生活環境部)



一般演題発表

シンポジスト



柴田英治先生



車谷典男先生



関戸好孝先生



酒井 潔先生

シンポジウム

「アスベスト研究の最前線」

に触れて感じたこと

岡村 愛 (名大・院・医・環境労働衛生)



平成19年度の東海地方会学会のシンポジウムは「アスベスト研究の最前線」というテーマで、4人の先生方による講演が行われました。

まず愛知医科大学の柴田先生は、胸部X線写真で見られる胸膜肥厚斑の診断法についてお話下さいました。胸膜肥厚斑はアスベスト曝露があったことを示す客観的な指標ですが、X線写真上で胸膜肥厚斑が認められなくてもCT上では確認される多くの例があり、CT写真で同時に確認することが有用であると報告されました。しかしながらリスクを確実にスクリーニングする方法は未だ開発されておらず、今後アスベスト関連疾患の患者数増加が予想される中で、望ましい健康管理のあり方の確立が早急に必要なと感じました。

次に奈良県立医科大学の車谷先生からは、近隣曝露に関する知見をご教授いただきました。職業曝露よりも曝露濃度や頻度が低いと考えられる非職業的な曝露であっても中皮腫を発症しうるのは、今後さらに大きな問題になっていくのではないかと思います。これらの曝露状況は把握しにくく、このような近隣住民への責任を企業側がどこまで果たすことができるかを考えると、非常に難しい問題であると思いました。またこのような集団に対する定期的な健康診断制度の確立が急務であると感じました。

愛知県がんセンターの関戸先生は、アスベスト曝露による悪性中皮腫発症のメカニズムを分子生物学的観点からご説明下さいました。中皮腫の原因遺伝子は他の腫瘍と比較して研究が遅れており、未だ解明されていないということでしたが、中皮腫の治療が困難であること、今後患者が増加することを考えると関戸先生の役割は非常に重要であり、現在中皮腫で苦しむ人達のためにも早期の機序解明が必要であると思いました。関戸先生のご研究が新しい治療法の開発に繋がることを期待しています。

最後に名古屋市衛生研究所の酒井先生には、長年携わってきた電子顕微鏡を利用したヒト肺内石綿及び非石綿繊維の定性・定量分析結果についてお話いただきました。酒井先生のご研究は、アスベスト繊維そのものに焦点を当てたという点で興味深いものでした。特に、中皮腫患者の中には肺内石綿濃度が低い患者もいること、また患者の肺内石綿濃度が経年的に減少していることの2点は、中皮腫のメカニズムを解明する上でも重要なポイントになるのでは、と思いました。



シンポジウム

今回のシンポジウムは、アスベストの分析から、職業的・非職業的曝露集団での事例、そして中皮腫発症のメカニズムと多岐に渡る分野の最先端の話を一度に聴くことができる非常に有意義なものでした。フロアとシンポジストとの間で質疑応答が活発になされたことは、多くの人にとって本シンポジウムが興味深い内容であったことを物語っています。今後4人の先生をはじめとしたアスベスト研究の更なる発展により、一日も早くアスベストによる健康不安が軽減されることを期待しています。



シンポジウム



会場風景

新春随想

サッカー部分のこと

吉川 恵造 (本田技研浜松)



HONDA FCが、天皇杯で快進撃を続けています！ 2006年はJFL(日本フットボールリーグ)で優勝したのですが、今季は残念ながら5位に終わり、連覇は成りませんでした。ところが、天皇杯では、東京ヴェルディ(J2)、柏レイソル(J1)に勝ったかと思うと、12月8日には何と名古屋グランパス(J1)を撃破し、8強入りを果たしたのです。

つつい力が入ってしまいました。と言うのも、HONDA FCの本拠は浜松製作所で、実は私もチーム・ドクターの端くれなのです。それで、ホーム・ゲームには時々ベンチに入っています。

3年半前にホンダの産業医になるまで、およそサッカーとは無縁の私でしたが、間近で見ると、これが実に面白い。ドクターですから、初めは接触プレーの時に選手がどんな倒れ方をするか冷静に観察しているのですが、いつの間にかそんなことを忘れて応援している始末です。

試合以外では、トップ・チームとサッカー・スクールのコーチ、

スタッフを対象に、熱中症予防についての講話や、AEDを含むBLSの実技講習なども、和気あいあいとやっています。

選手たちは、また、いくつかの職場に分かれて所属し仕事をしています。コンピュータと睨めっこをしている姿を見ると、こちらの顔がゆるんでしまうのは何故でしょうか。今年も、彼らが元気でケガをせず、思いっきりプレーできることを祈っています。

新年に誓う「脱メタボ！」宣言

新美 政博 (日本ガイシ)



新年あけましておめでとうございます。
謹んで新春のお祝いを申し上げます。
皆さんもご存知のように平成20年は、生活習慣病の予防を目的とする特定健康診査とそれにもとづく保健指導が全国一斉にスタートするメタボリック元年です。

これに先立ち、当社ならびに当社の健康保険組合では、平成19年度の定期健康診断より特定健診に必要な検査項目を加え、生活習慣改善必要レベルの判定を行うとともに、保健指導を開始しております。

私も昨年健康診断を受けましたが、大方の予想通りメタボリックシンドロームと判定されてしまいました。レベルとしては生活習慣改善の必要性が低い「情報提供」ではありましたが、従業員の健康管理を担当する者がメタボリックシンドロームとは面目ありません。

私は日頃から従業員の生活習慣病等に関する健康管理は企業と自己の双方の責任により成立するものであり、自己管理が十分できない人に対し、企業がどこまでコストを費やすのか疑問を感じています。

従業員は会社との雇用契約において賃金を受け取る対価として労働提供をする義務があり、その中には自身の健康管理も含まれるべきものと考えます。従って、保健指導は受身ではなく、積極的に自らの力で健康を確保するという意志を持って臨むべきものです。

健康管理も安全活動と同様にKY（空気が読めない人ではなく危険予知のこと）やリスクアセスメントの考え方を取り入れていく必要があるのではないのでしょうか。

私は以前にもダイエットに取り組み、食事制限とウォーキングで体重を約5kg減らしたこともありましたが、リバウンドとアルコールの誘惑に負け、元の体型に戻ってしまった経緯があります。

メタボリック元年を迎えるにあたり、近い将来に生活習慣病を宣告されることのないようダイエットに努め、家庭でも会社でも心身ともに健康でいきいきと過ごすことの出来るよう、ここに「脱メタボリック！」を宣言します。

健診センターの看護職の役割を思う



水野 由美

(岐阜県労働基準協会連合会 労働衛生センター)

当センターでは年間約6,000事業所、15万人の健康診断を行っています。事業所の多くは製造業で中小企業です。大企業のように産業医や

看護職が揃っているのは岐阜県内でもほんの一部です。

私どもが行う1年間の事業所従業員の保健指導件数は500名ほどです。決して多くはありませんが、健診センター看護職の宿命ゆえ健康診断業務にも従事します。そのときは大勢の方に出会えます。問診や血圧測定で受診者の体重や血圧の経年的な変化などをみて一言アドバイスをしています。次に会える機会があるかどうか分かりませんから、その時、その場面がとても大切です。

健康診断の結果は10日後くらいに事業所に報告しますので健診後の保健指導をできるだけ受けていただくように勧めています。従業員の方の中には判定だけみて放置、見ただけで結果の意味がわかっていない場合もあります。せっかく健康診断を受けても意味が分からず放置し、取り返しのつかないことになっては残念なことです。

そこで、受診された方に分かりやすい健診結果報告であるように現在検討を重ねています。

保健指導では「内臓脂肪が多いとどうしていけないのか？」とか「どうやって体重を減らしていけばよいのか？」などできるだけ具体的な説明をするようにしています。さらにその人の仕事内容や日常生活パターンなど生活の背景も考慮した上で問題を共有し、その人ができそうな事を一緒に考え最終的には本人に決めさせることで私どもの指導が相手の心に届き行動が変化してくると期待します。

人生の大半は労働生活に携わっています。その中で健康に過ごすことができれば会社の利益にも繋がりますし、ご本人の在職中や退職後の生活の質を高めることにもつながると思われれます。働く人の健康管理に側面から携わるということは重要な任務であり、私どもにしかできない部分でもあります。今後は事業所の看護職と連携を深めつつ、看護職のいない事業所従業員の健康管理の手助けができればと思っています。

新芽

後藤 由紀 (四日市看護医療大学)



新年、明けましておめでとうございます。

私は現在、平成19年4月に開校したばかりの四日市看護医療大学の地域看護学領域（産業看護学）に在籍しております。1年生しかいないキャンパスですが、学生一人一人が個性的でエネルギーに満ち溢れており、また緑豊かな環境の中で、私自身、日々看護についての学びを深めております。

四日市看護医療大学では、1年前期から地域看護学概論の中で、産業看護について1コマですが講義を行い、さらに後期には産業看護学Ⅰ、2年前期に産業看護学Ⅱ、3年前期に産業看護学Ⅲ、そして3年後期より4年前期にかけて地域看護学実習Ⅱ（産業看護）を配置し、看護基礎教育のうちから産業看護学に力を入れた特徴的なカリキュラムを展開しています。

併設の産業看護研究センターにおいては、研究員（兼任）と運営委員として活動しています。おそらく日本で始めて「産業看護」と冠のついた研究センターの一翼を担えることを誇りと責任を感じながら、研究等諸活動をおこなっております。学内の様々な領域の先生方と産業看護に関する研究を進めておりますが、他領域の先生方から、産業看護についての思いを聴く機会が増え、議論の中から、自分自身の看護観や産業看護の知識体系を整理し、新しい発見のある日々です。また、特定健康診断・特定保健指導に関連した研究ブ

プロジェクトも同時並行ですすめております。保健師の専門性を生かせる研究分野だと強く感じると同時に、企業、行政等で第一線でご活躍の方々とお会いする機会に恵まれ、知識や活動の幅が大きく広がったように感じています。

開学し、教員として赴任してから早一年が経とうとしています。うまく種を撒けてきたかどうかわかりませんが、いつか美しい花が咲くことを願い、新しい年は手間隙かけて肥料をやる一年にしたいと思います。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

学会・研究会

第2回 産業歯科部会研修会

原 康二 (三河歯科衛生専門学校)

11月18日(日)に第2回研修会を朝日大学名古屋サテライトにて行いました。会に先立ち、金山部会長が昨年度の活動内容・経費及び役員について説明しました。

引き続き、愛知学院大学歯学部の前井信二先生が「新たな産業歯科保健の展望・産業歯科保健における連携」として講演されました。職域における歯科保健の問題点として、歯の酸蝕症などの特殊健診が実施されているものの、う蝕や歯周病については法的な定めがなく、事業者や健保組合の自主性にまかされている現状を説明されました。そして職種により、う蝕や歯の喪失などに差がみられること、かかりつけの歯科医の有無を世代別にみると、20歳代から40歳代で低くなっていることなどから、労働者を対象とした歯科保健活動を行っていくことの必要性を強調されました。

後半は「これからの産業歯科保健活動」として討議を行いました。一つの方向として職域で受け入れられる公衆衛生的方法を検討していくこと、また職域の特性に合わせて活動内容を考え、他の職種との連携を深めていくことが大切である、など意見が出されました。また、顎関節症の発症が仕事の繁忙期と関連している可能性があるとの発言があり、今後のデータの蓄積が期待されます。

今後、職域の歯科保健について保健スタッフを対象にアンケート調査を行う方向で検討しています。

追悼 柏木先生の思い出

入谷 辰男 (元トヨタ自動車K.K.産業医)

私が名大医学部衛生学教室へ入門したのは昭和27年でした。当時は同門会が毎月あり、鯉沼教授門下生で井上俊、奥谷博俊、柏木正雄の1年違いの大先輩がおられ、末座の私は親しく話をすることもできませんでした。昭和31年に鯉沼教授が退官され、柏木先生の義兄である井上俊教授が就任され、医局長となった私も衛生学教室へよくこられた柏木先生とも親しく話ができる様になりました。当時は鉛中毒とけい肺が職業病の双璧といわれ、公害問題も出始め、井上教授が有機溶剤中毒を教室の主なテーマとされました。

その当時、柏木先生が衛生管理を進めるには「ノギヘンの科でなく、命令権をもったゴンペンの課でなければいけない」といわれたことを思い出します。昭和35年トヨタ自動車に入社した私は、人事部安全衛生課長の柏木先生の下へ入りました。病院の組織ではなく、会社の組織へ入り、作業環境測定や健康診断など職業病対策を担当しました。

当時は作業環境管理、作業管理、健康管理の基本的な衛生管理の3管理の思想は確立されていなかったが、医師たる衛生管理者と衛生管理者と一緒に業務を遂行した時代であった。入社1日目の業務日誌に赤鉛筆で対象を対照と訂正され、32才の私としては冷汗を感じたことを思い出します。それ以来、一字の間違いのない様に心がけ、このcheckの実践はplan→do→check→action→planというQCサークルによる仕事の進め方の第1歩となった。

柏木先生は事業者にも信頼され、当時の豊田英二総括安全衛生管理者も職場巡視の後は安全衛生管理の部屋へよくこられた。

昭和39年、夜勤中に、高血圧の人が脳出血で死亡した例があり、豊田英二総括安全衛生管理者が労働基準局へ呼出された帰途、安全衛生管理部へ立寄られ、「高血圧の人は何名いるか」と質問された。柏木先生と私も「結核の様な職場へ影響する伝染病は管理の対象であるが私病は対象としていない」と反論したが「高血圧の人は夜勤をさせない」と労働基準局と約束してきたから頼むといわれ、残夜業禁止の印鑑が成人病にまで拡大したことを思い出します。

平成の時代には当り前のこととなったが、成人病管理も幾多の変遷をくり返し乍ら就業制限や作業制限が徹底されたことも思い出します。

安全衛生課も昭和30年後半には人事部から独立し、安全衛生管理部に昇格し、初代の部長に柏木先生がなられ、安全と衛生は表裏一体であり、「安全管理のKey manは上司」という思想を部下の健康管理へも徹底しようとされた。

現場で事故があると、安全管理者と一緒に行かれ、その帰途、私の席へよられ、現場で怒ってきた理由を話され、間接的な私への教育を授けたことも思い出される。

「人生は人の出会い」というが良き指導者に会い、良き教訓を受け、生きがいのある人生を送らせて頂いたことに感謝すると同時に、昭和の職業病対策中心の時代に安全衛生管理の先駆者であった柏木先生の御冥福を御祈りし乍ら拙文を終ります。



柏木正雄先生 (前列一番左)

追悼 橋本哲明先生を偲んで

鈴木 良一 (四日市健診クリニック)

橋本先生は9月23日みたき総合病院で逝去されました。誠に残念でなりません。彼との付き合いは私が昭和33年当時の東芝名古屋工場(現在の東芝家電製造(株)愛知工場)に赴任して以来です。当時彼は既に昭和29年から富士工場で活躍中で、三重医専では私の一年後輩ですが東芝では先輩と云う訳です。彼はその後玉川工場、三重工場と社内を移動されたが、私は名古屋工場で定年を迎え、その後縁

があり関西電力大飯発電所の第一号常勤産業医に迎えられました。彼も以前から同社の原子力放射線管理に関係しておられ、後れて同社美浜発電所の常勤産業医として互いに平成10年まで勤務しました。退職後も共に四日市に於いてそれぞれ仕事をしており、二人の交友関係は半世紀に及んでいます。関係永続の要因の一つは同一企業での活動であったと思います。

彼は仕事が趣味の勉強家であり同時に大変企画力に勝れ、積極的な行動力の持主でありました。東芝、関西電力以後も社内の産業衛生活動はもとより、産業衛生学会を中心とする学会活動や東海地方会、三重産業医会など学術団体や地域社会の産業保健活動の指導に、文字通り八面六臂の活躍をされました。その関係で私も彼の手伝いをする機会が多く、お陰で色々な仕事を経験させて頂いた事を感謝しています。彼はまたどんな個性の強い人でも立ち所に自家菜籠中のものとする包容力があり、飲み会が好きで斗酒なお辞せぬ豪快な飲みっぷりと得意なカラオケの披露など、賑やかな座持ちの名人もありました。底抜けの楽道家で明るい反面、意外に細心家でもありました。社交家で知人も多く人の面倒もよくみました。会う度に自分にないそんな彼の豊かな人間味に魅かれていた事も二人の関係永続の第二の要因ではなかったかと思えます。

日頃頑健と信じている彼から今年の6月末突然、胆嚢がんと肝転移のため入院治療を受けると告げられ、少なからず驚きました。7月より愛知がんセンターに入院されたものの薬剤の副作用が強く、期待した治療も受けられず病勢の進行も急速のため、8月下旬より私の職場の病院にてお世話して頂く事になりました。

彼は既に多大な業績を残されましたが、自身ではなお再起活動の意欲があり、それだけにその願望も絶たれ大変無念な心情ではなかったかと推察しています。日々衰弱の度が増し、面会が辛くなっていました。家族の方々の懸命な看病の甲斐なく亡くなられ、淋しい気持ちで一杯です。人それぞれ異なる運命の悲哀をつくづく感じております。

心よりお悔やみ申し上げますと共に、ご冥福をお祈りして橋本先生を偲びお別れの言葉と致します。



橋本哲明先生

これからの諸行事予定

①第22回産業保健スタッフのための研修会

日時：平成20年2月2日(土) 10:30~16:40

会場：愛知医科大学 たちばなホール

(愛知県愛知郡長久手町大字岩作字雁又21)

参加費：地方会会員 4,000円 非会員 5,000円(資料代含む、昼食代含まず)

会場定員：300名

事務局：愛知医科大学医学部衛生学講座内

日本産業衛生学会東海地方会事務局

〒480-1195 愛知県愛知郡長久手町大字岩作字雁又21

Tel&Fax: 0561-62-3580 (直通)

プログラム：

10:30~10:45 開会の挨拶・オリエンテーション

小林章雄 (日本産業衛生学会東海地方会会長)

寺澤哲郎 (日本産業衛生学会東海地方会事業部長)

10:45~12:00 講演

「職場条件向上を目指した人間工学的KAIZEN」

岸田孝弥 (中京大学心理学部教授)

座長 城 憲秀 (中部大学生命健康科学部教授)

13:00~14:15 講演

「産業保健における歯科の役割一歯の健康づくりを考える」

坪井信二 (愛知学院大学歯学部講師)

座長 金山敏治 (岡崎労働衛生コンサルタント事務所)

14:30~16:30 ディスカッション

「職域で特定健診・保健指導に取り組む意義は？」

座長 柴田英治 (愛知医科大学医学部准教授)

青山京子 (聖隷健康診断センター)

指定発言

斉藤政彦 (大同特殊鋼(株)星崎診療所)

吉田 勉 (名城大学薬学部教授)

杉本日出子 (㈱ジェイテクト 安全衛生環境管理部)

市丸麻衣子 (三菱重工(株)名古屋航空宇宙システム製作所)

16:30~16:40 閉会の挨拶

②第68回産業疲労研究会定例研究会

日程：2008年2月9日(土) 10:00~16:00

会場：中部大学名古屋キャンパス(中部大学技術医療専門学校)

6階610会議室

(名古屋市中区千代田5-14-22)

内容：10:00~12:00

一般演題

13:00~14:30

特別講演 「労働者の疲労をどのように研究するか」

斉藤良夫(元 中央大学)

15:00~16:00

ディスカッション「疲労対策ツールを考える」

③第21回振動障害研究会

日程：平成20年2月23日(土) 13:30~16:30

場所：名古屋大学医学部・鶴友会館 2階大会議室

演題：1. 日本における振動管理対策と第11次労働災害防止計画

前田 節雄

(独立行政法人 労働安全衛生総合研究所)

2. 機械安全・手腕振動規格の動向

— 欧州規格がISO規格になる背景 —

畝山 常人 (㈱マキタ)

3. 新JIS T8114施行に関連した国内防振手袋メーカーの開発動向

柴田 延幸

(独立行政法人 労働安全衛生総合研究所)

4. はつり工の冬期の自覚症状

井奈波 良一 (岐阜大学医学部)

④第1回グローバル化と安全衛生研究会

日 時：2008年2月23日(土) 14:00~16:00

場 所：中部大学技術医療専門学校 6階610会議室
(名古屋市中区千代田5-14-22)

⑤第71回職場ストレス研究会

日 時：平成20年2月26日(火) 14:00~16:00

テーマ：「職場不適応事例への理解と対応」

講 師：古井 景先生

(愛知淑徳大学コミュニケーション学部教授)

資料代：500円

場 所：明倫ホール(中区新栄2-4-3 明倫ビル6F)

単 位：産業看護継続教育システム実力アップコース：V-2-
(3)1単位

⑥第14回日本行動医学学会学術総会

日 程：2008年3月21日(金)~22日(土)

会 場：三重大学医学部

大会長：横山和仁

(三重大学大学院医学系研究科公衆衛生・産業医学分野)

地方会理事会

2007年度 第2回理事会

日 時：2007年9月8日(土) 10:00~

場 所：名古屋大学医学部鶴友会館

出席者：理事32名、監事1名、委任状32名

【議題】

A. 前回理事会議事録の確認

B. 報告事項

- 1) 本部報告事項 2) 地方会事務局報告事項 3) 平成19年度総会並びに研修会開催報告 4) 愛知県医師会産業保健部会報告 5) 平成19年度地方会学会準備状況 6) 平成19年度産業医産業看護職衛生管理担当者のための研修会準備状況 7) 地方会部会報告 8) 地方会ニュース編集状況 9) 関連学会・研究会開催報告 10) 今後の学会・研究会等

C. 協議事項

- 1) 顧問の就任要請 2) 名誉会員の推薦と承認 3) 東海地方会における包括的学術研究支援策 4) 平成20年度地方会総会並びに研修会 5) 平成20年度地方会学会 6) 部会規定(案)の取扱い 7) 地方会70周年記念行事資料の取扱い 8) その他

2007年度 第3回理事会

日 時：2007年11月10日(土) 13:30~

場 所：名古屋大学医学部鶴友会館

出席者：理事25名、監事1名、委任状35名

【議題】

A. 前回理事会議事録の確認

B. 報告事項

- 1) 本部報告事項 2) 地方会事務局報告事項 3) 平成19年度地方会学会準備状況 4) 平成19年度産業医産業看護職衛生管理担当者のための研修会準備状況 5) 愛知県医師会産業保健部会報告 6) 愛知労働衛生関係機関連絡会議報告 7) 平成20年度総会並びに研修会準備状況 8) 平成20年度地方会学会準備状況 9) 地方会部会報告 10) 地方会

<p>財団法人 愛知健康増進財団 会 長 川 口 文 夫 〒462-0844 名古屋市中区清水一丁目18番4号 TEL(052)951-3331</p>	<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">謹 賀 新 年</p> 	<p>医療法人 愛知集団検診協会 愛知健診所 〒496-0048 津島市藤里町2-3-1 TEL (0567) 26-7328番 FAX (0567) 26-7994番</p>	
<p>株式会社 あまの創健 代表取締役社長 大 森 幹 彦 〒461-0001 名古屋市中区東泉2丁目20-20 TEL(052)931-0101 FAX(052)932-1745</p>		<p>財団法人 岐阜県産業保健センター 理 事 長 佐分利 錬 尔 診 療 所 長 加 藤 保 夫 〒507-0801 多治見市東町1丁目9番地の3 TEL(0572)22-0115</p>	<p>医療法人 社団卓和会 しらゆりクリニック健診センター 理 事 長 由 利 卓 也 〒442-0013 豊川市大堀町77番地 TEL.0533-86-1515</p>
<p>医療法人 光生会病院 健診センター・PETセンター 〒440-0045 豊橋市吾妻町137番地 TEL (0532) 61-3166 FAX (0532) 63-5407</p>		<p>社団法人 瀬戸健康管理センター 理 事 長 加 藤 庄 平 診 療 所 長 坪 井 靖 治 〒489-0809 瀬戸市共栄通1丁目48番地 TEL (0561) 82-6194 FAX (0561) 85-2466</p>	
<p>財団法人芙蓉協会 聖隷沼津健康診断センター 所 長 伊 藤 孝 〒410-8580 沼津市本字下一丁目895-1 TEL (055) 962-9882 FAX (055) 952-1019</p>			

ニュース編集状況 11) 関連学会・研究会開催報告 12) 今後の学会・研究会等 13) その他

C. 協議事項

- 1) 地方会会員登録の適正化(整理)について
- 2) 名誉会員・功労賞推薦のための情報収集について
- 3) その他

- ⑨望月圭衣子(あまの創健) ⑩柏木正雄 ⑪西山久美(NTT西日本東海健康管理セ)
- ⑫前田憲司(名市大) 静岡⑬青木由香子(結核予防会) 三重⑭武内操(武内病院)
- ⑯橋本哲明(八千代工業) ⑰内田沙織(中部近鉄百貨店) 岐阜⑱川崎秀二(カワサキ歯科医院)

地方会内転入出 愛知→岐阜①籠橋厚樹(藤井医院)

会員の異動

(2007.8.~2007.11.30)

新入会 愛知①日下祥子(名古屋郵政健康管理セ) ②土岐みのり(ショーフ) ③村瀬達良(名古屋第一赤十字病院) ④田中伸(東名古屋病院) ⑤寺澤知彦(藤田保健衛生大) ⑥加藤隆寛(愛知医大) ⑦南圭介(中京サテライトクリニック) 三重①任剛(三重大) ②加藤桂三(本田技研工業) 静岡①渡邊章吉(ニューフレアテクノロジー)

再入会 愛知①金一成(トヨタ自動車) 岐阜①梅津美香(岐阜県立看護大)

転入 愛知①森田充浩(藤田保健衛生大)(関東から) ②井本貴之(トヨタ自動車)(関東から) ③田中英夫(愛知県がんセンター)(近畿から) ④太田充彦(藤田保健衛生大)(中国から) 静岡①内山鉄朗(ヤマハ発動機)(九州から) 三重①田島静(パナソニックエレクトロニクスデバイス)(九州から) 岐阜①安田佳世(自衛隊岐阜病院)(関東から)

転出 愛知①荒薦優子(名古屋郵政健康管理セ)(九州へ) 静岡①伊藤雅代(キヤノン)(関東へ)

退会 愛知①八木田美保 ②金原享子(きんばら歯科医院) ③荒川精一(きんばら歯科医院) ④田村敬(三井化学) ⑤鶴飼史貴(名古屋郵政健康管理セ) ⑥飯田英男(愛知産業保健推進センター) ⑦青山光子 ⑧加藤友久(加藤歯科医院)

訂正: 第71号で退会掲示した 愛知 佐藤理之様(佐藤歯科医院)は退会されていません。事務局の手違いでご迷惑をお掛けしたことをお詫び申し上げます。

編集後記

本年最初の東海地方会ニュースをお届けします。新春に際し、各県の産業保健に携わる方々に、随想をご執筆いただきました。2008年は、特定健診・特定保健指導の導入に伴って、労働安全衛生法による健康診断項目にも変更があります。特定健診・特定保健指導の導入によって生じる問題・課題は様々であろうことが予想され、その対応にも追われつつ、皆様日々の産業保健活動の充実に向けて精励しておられることと思います。

地方会ニュースが、東海地方産業保健活動への社会的ニーズに応え、より一層発展していくことに貢献できますよう、微力ながら編集に関わらせていただきたいと思います。(梅津美香)

次回発行 平成20年5月1日 編集責任者 谷脇 弘茂(藤田保健大)

編集委員(五十音順)

- 石川浩二(三菱重工) 市原 学(名大)
- 梅津美香(岐阜県立看護大) 榎原 毅(名市大)
- 高崎正子(東芝四日市) 西谷直子(東レ愛知工場)
- 武藤繁貴(聖隷健診センター) 渡邊美寿津(愛知医大)

定期健康診断、人間ドック、PET健診、健康づくり等皆様のトータルヘルスサポートを支援します!

(社福) 聖隷福祉事業団 聖隷保健事業部 聖隷健康診断センター 所長 武藤 繁貴 〒430-0906 浜松市中区住吉2-35-8 TEL(053)473-5506 聖隷予防検診センター 所長 浅井八多美 〒433-8558 浜松市北区三方原3453-1 TEL(053)439-8161



医療法人 名翔会 名古屋セントラルクリニック

〒457-0071 名古屋市中区千竜通7-16-1 TEL(052)821-0090 FAX(052)824-0655



社団法人 半田市医師会健康管理センター 所長 春田 和 廣

〒475-8511 半田市神田町1-1 TEL(0569)27-7881

謹賀新年

平成二十年元旦

医療法人 九愛会 中京サテライトクリニック 理事長 南 圭 介 〒470-1101 愛知県豊田市杏掛町石畑180番地の1 TEL (0562) 93-8225 FAX (0562) 93-0938

(医) 豊昌会 豊田健康管理クリニック 〒473-0907 豊田市竜神町新生151番地2 TEL (0565) 27-5550 FAX(0565) 27-5036



医療法人 大医会 日進おりど病院 予防医学推進・研究センター

〒470-0115 日進市折戸町西田面110番地 TEL 0561 (73) 7771 FAX 0561 (73) 6140

